

2026年度 第1四半期決算 および HIV事業に関するアップデート 説明資料

2026年8月3日

塩野義製薬株式会社



SHIONOGI

Agenda

2026年度 第1四半期決算 (P.3-21)

- 01 2026年度 第1四半期決算の概要 (P.3-8)
- 02 主要事業の進捗 (P.9-14)
- 03 開発パイプラインの進展 (P.15-21)

HIV事業に関するアップデート (P.22-32)

2026年度 第1四半期決算の概要

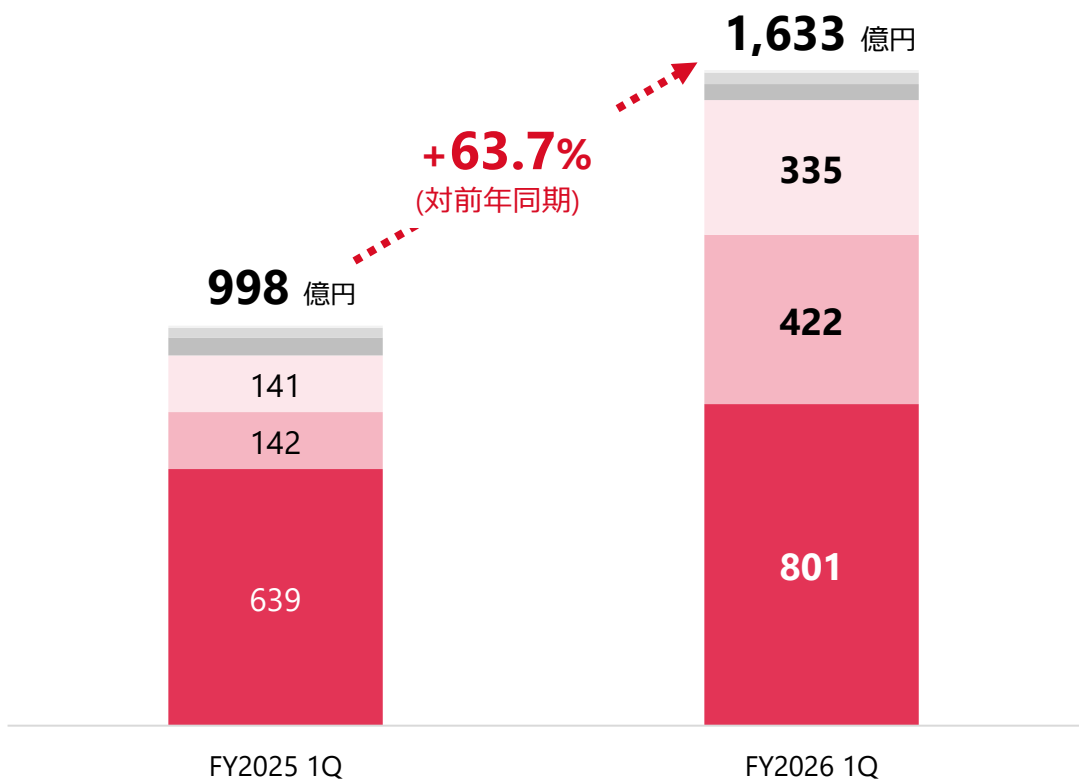


SHIONOGI

主要事業による飛躍的な成長

既存ビジネスの成長と獲得した事業の統合効果により、第1四半期で創業来最高の売上収益を更新

ー売上収益の推移ー



国内医療用医薬品 +137.3%（対前年同期）

- 事業投資による統合効果
 - **鳥居薬品**、ラジカットの売上
- クービビックの伸長

海外子会社/輸出 +196.6%（対前年同期）

- 米国でのRADICAVA事業の開始**
- 欧米のセフィデロコルの安定した成長

ロイヤリティー収入 +25.3%（対前年同期）

- ViiV社の売上収益の増加**
- 旧JT医薬事業関連のロイヤリティー収入

連結経営成績

売上収益および全ての利益項目で、増収増益を達成

(単位：億円)

	2026年度				2025年度		対前年同期	
	通期予想	上期予想	4-6月 実績	上期達成率	4-6月 実績	UP率	増減額	
売上収益	7,000	3,400	1,633	48.0%	998	63.7%	635	
営業利益	2,200	960	669	69.7%	351	90.6%	318	
税引前四半期利益	2,200	960	737	76.8%	463	59.2%	274	
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	2,100	1,080	977	90.5%	394	148.2%	583	
EBITDA*1	3,150	1,520	934	61.4%	406	129.8%	527	

*1 Earnings Before Interest, Taxes, Depreciation, and Amortization : 営業利益から非経常的な項目（減損損失、有形固定資産売却益等）を調整し、減価償却費を加えた利益

連結損益計算書

(単位：億円)

	2026年度		2025年度		対前年同期	
	通期予想	上期予想	4-6月実績	達成率	4-6月実績	UP率 増減額
売上収益	7,000	3,400	1,633	48.0%	998	63.7% 635
	17.1	18.8	18.9		12.3	
売上原価	1,200	640	308	48.1%	123	150.0% 185
売上総利益	5,800	2,760	1,325	48.0%	875	51.5% 451
販管費*1+研究開発費	56.4	57.9	56.8		51.3	
	3,950	1,970	928	47.1%	512	81.2% 416
	34.3	34.7	37.3		26.4	
販売費・一般管理費	2,400	1,180	610	51.7%	263	131.8% 347
	22.1	23.2	19.5		24.9	
研究開発費	1,550	790	318	40.2%	249	27.7% 69
その他の収益・費用	350	170	272	159.8%	△12	- 283
	31.4	28.2	41.0		35.2	
営業利益	2,200	960	669	69.7%	351	90.6% 318
金融収益・費用	-	-	68	-	112	△39.2% △44
	31.4	28.2	45.2		46.4	
税引前四半期利益	2,200	960	737	76.8%	463	59.2% 274
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	2,100	1,080	977	90.5%	394	148.2% 583

主な増減要因（対前年同期）

売上収益 増加：ロイヤリティー収入、国内医療用医薬品 海外子会社/輸出
売上原価 増加：鳥居薬品の売上 エダラボンの在庫評価に係る一過性の費用
販管費 増加：無形資産の償却費（JTグループ医薬事業、エダラボン事業*2） 米国事業の販売関連費用、鳥居薬品の販管費
研究開発費 増加：旧JT医薬事業、鳥居薬品の研究開発費
その他の収益・費用 増加：ViiV社に係る持分法投資利益*2 ※ViiV社株式追加取得に伴うPPAの影響は、第1四半期では未反映
金融収益・費用 - 減少：ViiV社からの受取配当金の計上方法の変更*3 - 増加：為替差益
親会社の所有者に帰属する四半期利益 増加：繰延税金資産を計上したことによる税費用の減少

*1 販売費・一般管理費 *2 PPA：Purchase Price Allocation（取得原価配分）完了前の暫定処理
*3 前期は損益計算書の金融収益（配当金収入）として認識していたViiV社からの配当金は、財政状態計算書の「持分法で会計処理されている投資」（非流動資産）に反映

事業別売上収益

(単位：億円)

	2026年度		2025年度		対前年同期	
	通期予想	上期予想	4-6月実績	達成率	4-6月実績	UP率 増減額
国内医療用医薬品	1,786	799	335	42.0%	141	137.3% 194
海外子会社/輸出	1,752	854	422	49.4%	142	196.6% 280
Shionogi Inc. (米国)	1,387	680	320	47.1%	62	417.1% 258
RADICAVA*	1,017	518	242	46.7%	-	- 242
Fetroja	-	-	77	-	59	29.4% 17
Shionogi B.V. (欧州)	226	111	66	59.7%	47	40.4% 19
Fetcroja	-	-	50	-	34	44.9% 15
塩野義有限公司 (中国)	53	25	15	57.8%	15	△2.6% △0
その他	87	38	21	55.2%	18	15.5% 3
製造受託	144	77	40	51.7%	45	△11.0% △5
一般用医薬品	188	83	29	34.7%	24	19.6% 5
ロイヤリティー収入	3,106	1,577	801	50.8%	639	25.3% 162
HIVフランチャイズ	2,760	1,391	727	52.3%	612	18.9% 115
その他	346	186	74	39.6%	27	169.3% 46
その他	23	9	6	66.7%	6	△4.4% △0
合計	7,000	3,400	1,633	48.0%	998	63.7% 635

主な増減要因（対前年同期）

国内医療用医薬品

- 増加：鳥居薬品、ラジカット、クービビックの売上
- 減少：急性呼吸器感染症薬の売上

海外子会社/輸出

- 増加：RADICAVA、欧米のセフィデロコルの売上
（米：Fetroja、欧：Fetcroja）

ロイヤリティー収入

- 増加：HIVフランチャイズ（ViiV社による売上）
その他
- 旧JT医薬事業関連のロイヤリティー

*RADICAVAの米国とカナダにおける売上収益のUP率：14.6%
2026年4-6月：151.9MUSD（SHIONOGIグループでの売上）、2025年4-6月：132.5MUSD（田辺ファーマでの売上）

第1四半期の実績と今後の見通し

主要事業のさらなる成長により、上期予想の達成に向けて着実に進捗

第1四半期実績

売上収益および全ての利益項目で第1四半期の過去最高を更新

- 主要事業の成長および獲得した事業の統合効果により業績が拡大
- 米国事業のさらなる成長に向けた投資を継続

上期の見通し

上期予想は達成を見込む

- HIVフランチャイズおよび海外事業は、さらなる成長により収益拡大を継続
- COVID-19の流行に備えた取り組みの継続
- 第2四半期以降に、ViiV社株式追加取得に係るPPAの結果を持分法投資利益に反映

主要事業の進捗

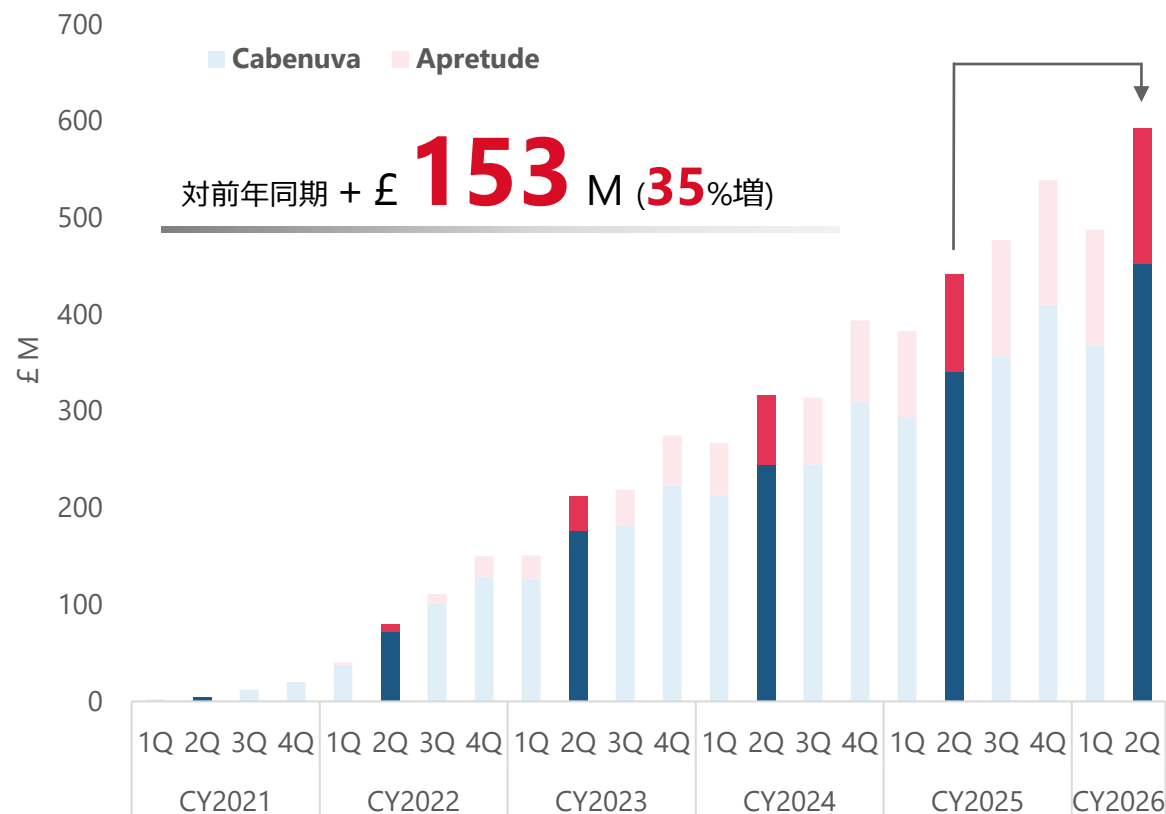


SHIONOGI

ViiV社によるHIVフランチャイズの進展

LAI*1ポートフォリオがHIV市場でのViiVの成長とシェア拡大を牽引

ViiV社の売上推移*2（LAI製剤）



CABENUVA
cabotegravir; rilpivirine

—治療—

売上収益 (CY2026 2Q)

成長率 (対前年同期)

£ **453** M

+ **33** %

- 米国：Cabenuvaへの切替患者**77%**が競合品から流入



Apretude▼
cabotegravir 200 mg/mL

—予防—

売上収益 (CY2026 2Q)

成長率 (対前年同期)

£ **140** M

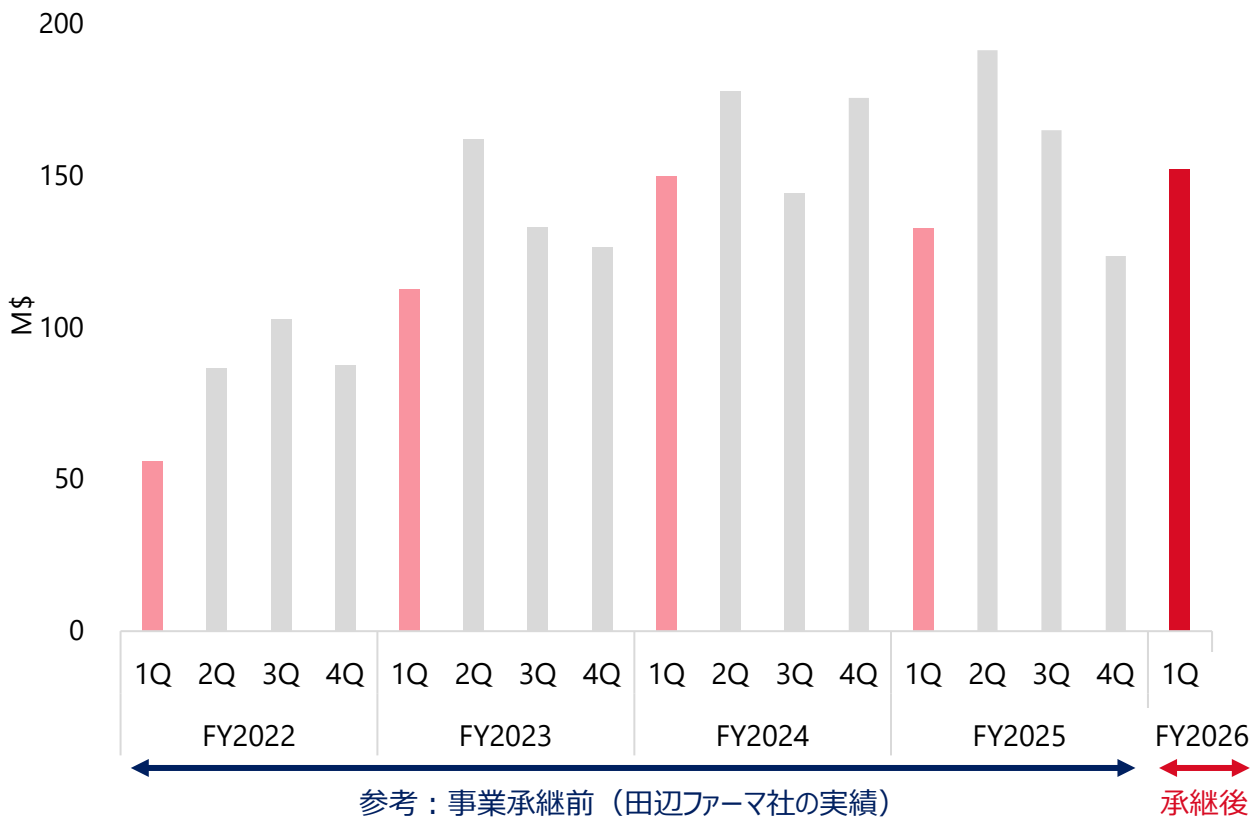
+ **39** %

*1 Long Acting Injectable（長時間作用型注射剤） Cabenuva、Apretude *2 成長額は一定為替レートベース（CER）で表示

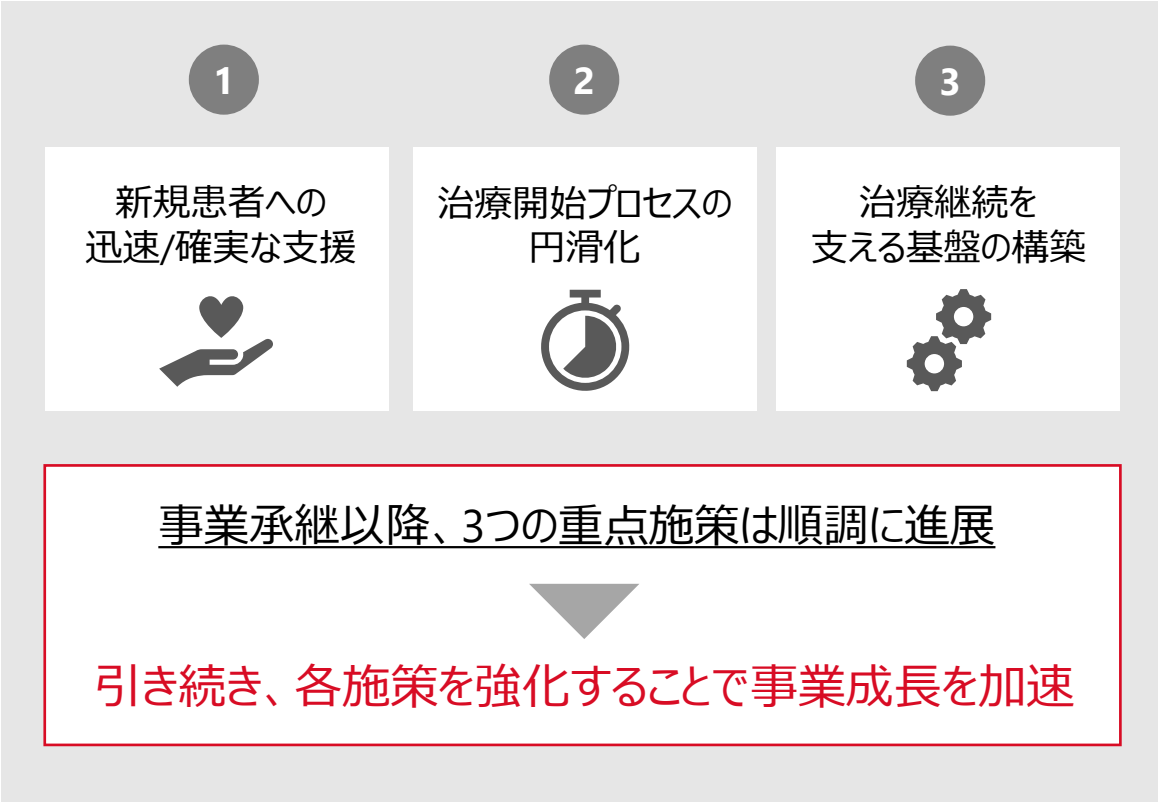
RADICAVA事業の進捗

円滑な事業承継とPMI*1の推進により、第1四半期として過去最高の売上収益を達成

RADICAVAの売上推移（米国・カナダ）



成長を支える取り組み*2



XOCOVAの米国発売（COVID-19 曝露後発症予防）

発症予防という新たな選択肢の浸透を推進

PEP*¹に対する関心と医師の受容性*²



重症化リスクの高い人

- ・ 約**69%**がXOCOVAの処方に関心あり



医師の**92%**が処方に前向き



重症化リスクの高い人と同居する人

- ・ 約**81%**がXOCOVAの処方に関心あり



医師の**88%**が処方に前向き

実施中の主要施策

1



認知⇒受診の促進

- ・ SNSやCTV*³広告への重点投資：
関心の高い層に対して効果的に啓発
- ・ TVCMの活用および検索エンジンの最適化：
高齢者層の認知度を最大化

2



適正使用の促進

- ・ 営業体制の構築：COVID-19罹患率の高い
地域を中心に、約160名で全米をカバー

3



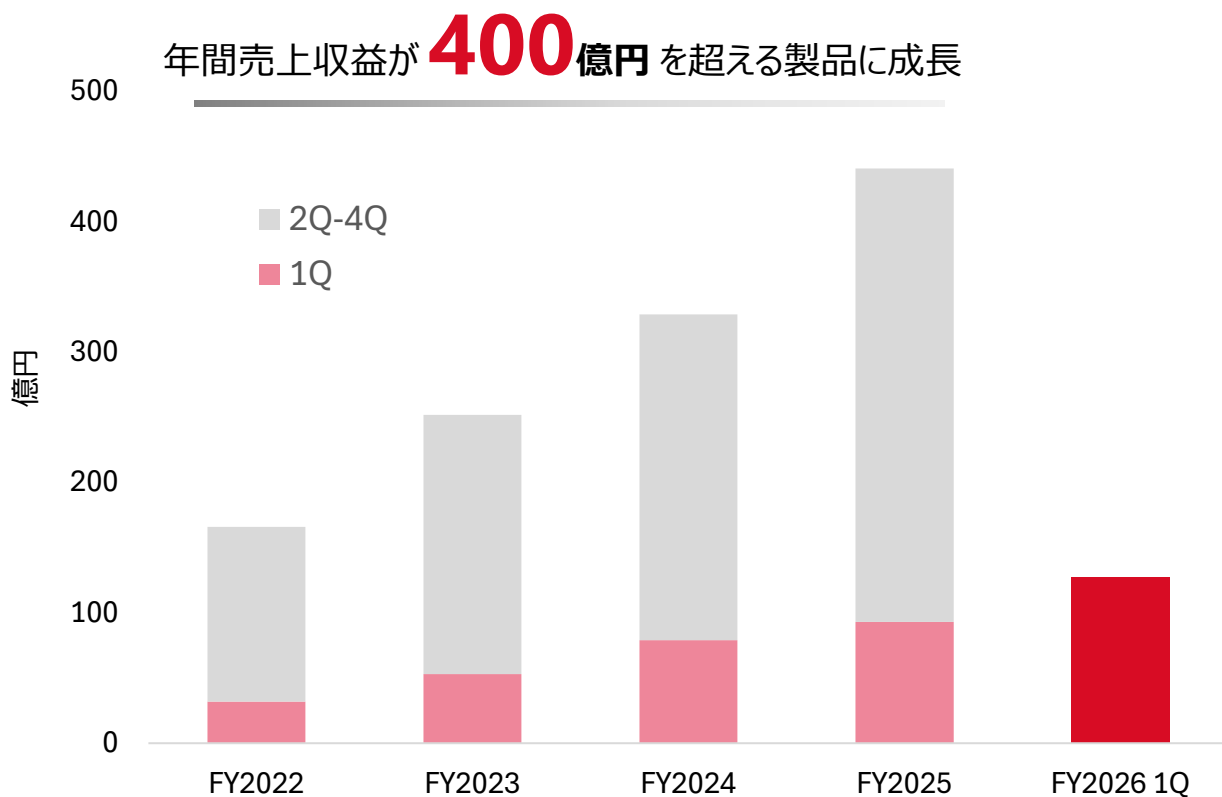
流通および保険償還体制の整備

- ・ 薬局の在庫確保
- ・ 保険会社との協議を開始

セフィデロコルの成長

適正使用の推進を軸として、製品価値を最大化

売上収益の推移（欧米）



主な成果/取り組み

- **売上収益の伸長が継続**
 - FY2026 1Q実績：127億円
 - > 欧州：対前年同期 +**15**億円（+**44.9**%）
 - > 米国：対前年同期 +**17**億円（+**29.4**%）
- **AMR対策への取り組みが国際的な評価を獲得^{*1}**
 - Antimicrobial Resistance Benchmark 2026において第2位に選出
- **小児適応追加への取り組み**
 - 承認申請を米国食品医薬品局（FDA）が受理^{*2}
 - > 審査終了目標日（PDUFA date）：2027年2月23日

国内事業の進展

製品ラインナップの拡充により、国内事業が安定的に成長

国内事業の売上収益（1Q）

対前年同期 **+194億円**（137.3% 増）

■ QOL疾患^{*1}

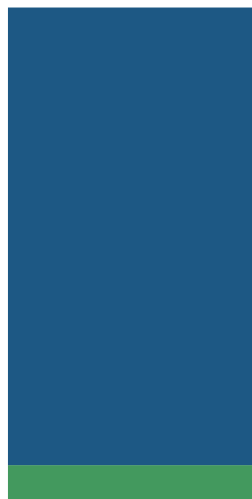
■ 感染症

141億円^{*2}



FY2025

335億円



FY2026



鳥居薬品関連製品 1Q : 188億円^{*3}

- SLIT^{*4}製剤の出荷量の増加^{*5}
- 皮膚疾患領域でのコプロモーション



ラジカット 1Q : 18億円^{*6}

筋萎縮性側索硬化症（ALS）等の治療薬

- 啓発活動による早期の診断・治療促進



クービビック 1Q : 15億円

不眠症治療薬

- 精神科における採用施設数増加により売上拡大



ザズベイ 1Q : 4億円

うつ病治療薬

- クリニックを中心に採用施設増加



急性呼吸器感染症（ゾコーバ・ゾフルーザ・ラピアクタ）

Rapiacta®

- COVID-19の治療薬市場において67.5%のシェア獲得^{*7}
- 感染流行に備えた情報提供

^{*1} 社会的影響度の高いQOL疾患：睡眠障害、難聴、子どもの希少疾患、免疫・アレルギーなど ^{*2} 鳥居薬品関連製品、ラジカットおよびザズベイの売上収益は含まず

^{*3} 対前年UP率：13.2%（JTグループ医薬事業での鳥居関連製品の前年同期売上比較） ^{*4} SLIT：Sublingual Immunotherapy（舌下免疫療法）

^{*5} 限定出荷は継続中であるものの、特約店への出荷量は随時増加している ^{*6} 対前年UP率：2.4%（田辺ファーマでの前年同期売上比較） ^{*7} JAMDAS（2026年4月1日～6月30日のデータ）

開発パイプラインの進捗



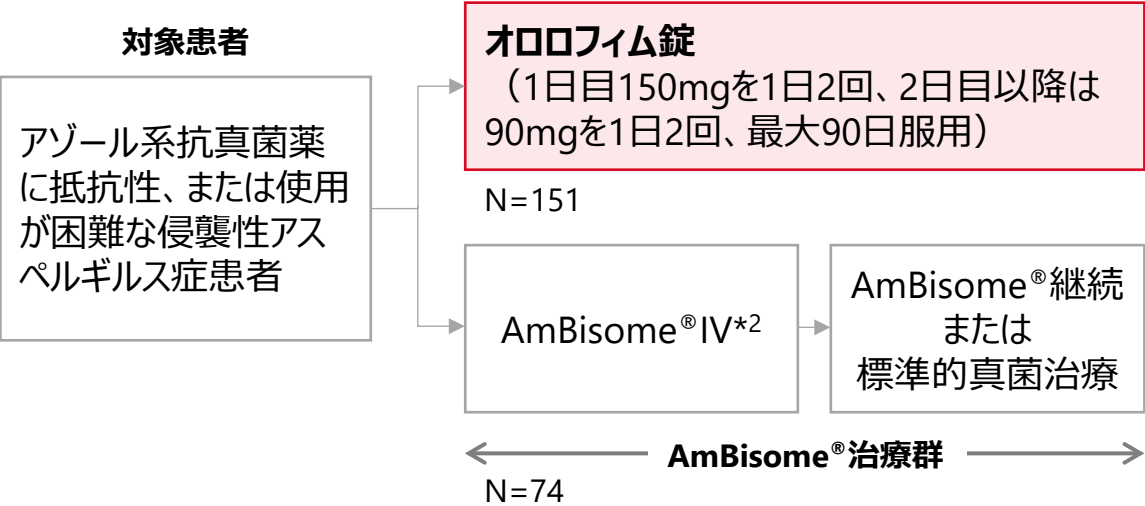
SHIONOGI

オロロフィム：Phase 3試験の結果（速報）

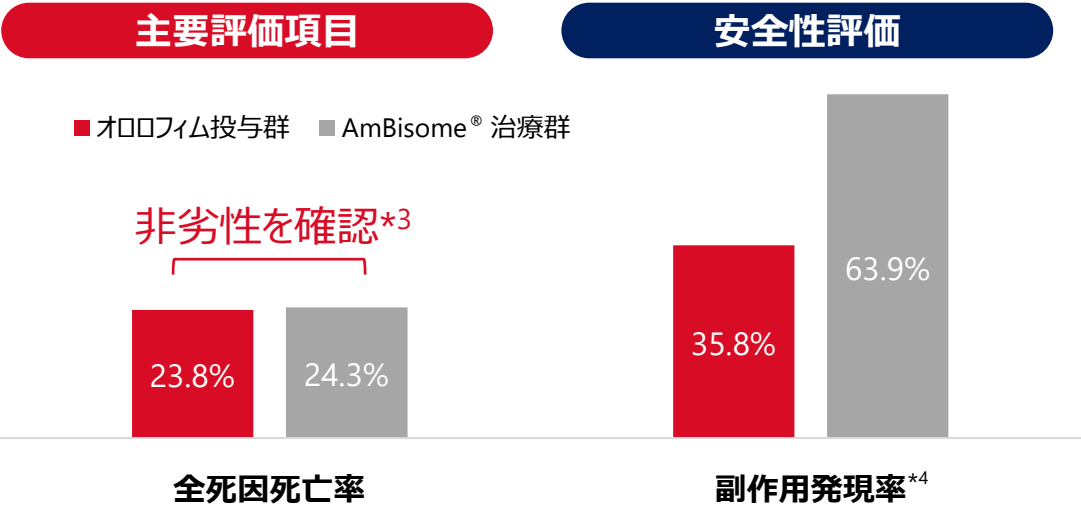
主要評価項目を達成し、欧州およびアジア地域での承認申請を予定

試験概要

試験デザイン	多施設共同、無作為化、評価者盲検、実薬対照、第3相試験
主要評価項目	治療開始後42日時点での全死因死亡率



試験結果（速報）*1



- 主要評価項目である42日時点の全死因死亡率において非劣性を確認
- 副作用の発現率*4は35.8%で、安全性上の新たな懸念なし

*1 [2026年6月18日プレスリリース](#) *2 Intravenous infusion（静脈内投与） *3 群間差は-0.5%（95%信頼区間：-13.1%～10.8%）
*4 治験担当医が薬剤と関連ありと判断した、有害事象が1つ以上認められた患者の割合

侵襲性アスペルギルス症の治療課題

アゾール系抗真菌薬が使用困難な患者に対する新たな治療選択肢が必要

侵襲性アスペルギルス症の現状

患者数

- 欧州・日本・中国で年間**20万人以上**の診断と推計

高い死亡リスク

- 重篤な感染症で未治療の死亡率は**100%***¹
- 現行の抗真菌療法での死亡率は約**30%***¹

治療選択肢の不足

- アゾール系抗真菌薬（第一選択）：耐性真菌の増加^{*2}、DDI^{*3}の懸念
- 代替薬^{*3}：安全性や忍容性への配慮が必要

新たな代替薬への期待

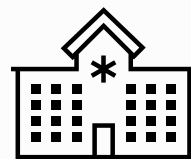


1. 高い安全性

ハイリスク患者にも使用しやすい選択肢が必要

臓器障害のリスク

DDIの**少ない薬剤**



2. 患者負担の軽減

長期治療を支える簡便な投与方法への期待

長期間の**静注治療**

外来への移行

真菌領域におけるAMR対策への貢献

既存治療で対応が困難な真菌感染症に、新たな治療選択肢を提供

オロロフィムの製品特性

高い抗真菌活性

ーアゾール耐性真菌・希少真菌*1にも活性ー

真菌の生育に必須である
ピリミジン合成を阻害する新規作用機序

優れた安全性

ー安全性上の重大な懸念なしー

良好な安全性プロファイルで
長期服薬における患者負担を軽減

経口治療の選択肢

ー注射剤にはない利便性ー

入院から退院後まで
一貫した治療を実現

感染症のリーディングカンパニーとして、グローバルの課題であるAMR対策へ貢献

薬剤耐性 細菌

セフィデロコル

カルバペネム耐性菌を含む
重症感染症

+

薬剤耐性 真菌

オロロフィム

アゾール耐性菌を含む
侵襲性アスペルギルス症

2026年度 R&Dマイルストーン（感染症領域）

赤字：2026年5月13日～2026年8月3日の変更 ✓：マイルストーン達成

対象となる品目は順次アップデートを実施予定
速報は入手時期を示しており、開示時期は別途検討

開発品	対象疾患	FY2026 1H		FY2026 2H		上市予定時期*1
エンシトレルビル	COVID-19 治療	承認（欧州）				-FY2027
	COVID-19 治療（小児6-11歳）	承認（日本）	✓			
	COVID-19 治療（小児0-5歳）			Phase 3 速報		
	COVID-19 曝露後予防	承認（米国*2）	✓			
Secutrelvir	COVID-19 治療（経口）	Phase 3 開始	✓			FY2028-2030
	COVID-19 曝露前予防（注射剤）			Phase 2 IND*3準備開始		FY2031-
S-268024	COVID-19（JN.1ワクチン）	承認（国内）				-FY2027
S-567123	サルベコウイルス*4感染症 （広域コロナウイルスワクチン）	Phase 1 速報		Phase 2 開始		FY2028-2030
S-337395	RSウイルス感染症			Phase 2b 速報		FY2028-2030
オロロフィム	侵襲性アスペルギルス症	Phase 3 速報	✓	申請（欧州）		FY2028-2030
セフィデロコル	AMR（グラム陰性菌感染症 小児）	申請（米国・欧州）	✓	承認（米国）		-FY2027
S-649228	AMR（グラム陰性菌感染症）	Phase 1 速報 Phase 2 開始				FY2028-2030

*1 SHIONOGIが販売権を有するいずれかの国や地域における初回上市のタイミングを示すものであり、特定の国や地域を前提とした記載ではない

*2 欧州でも申請済み *3 IND：Investigational New Drug *4 SARS-CoV（2002年SARS）およびSARS-CoV-2（COVID-19）を含むウイルス群

2026年度 R&Dマイルストーン（QOL疾患領域）

対象となる品目は順次アップデートを実施予定
速報は入手時期を示しており、開示時期は別途検討

開発品	対象疾患	FY2026 1H		FY2026 2H		上市予定時期*1
Zatolmilast	脆弱X症候群			Phase 2/3 追加解析結果 Phase 3（オープンラベル継続 長期投与）中間解析		FY2028-2030
	Jordan症候群	Phase 2 速報				
S-606001	ポンペ病			Phase 2 LPI*2		FY2031-
S-054501 (S-600918 + 併用薬X)	睡眠時無呼吸症候群（中枢性）	Phase 2 速報				FY2028-2030
S-054502 (スルチアム)	睡眠時無呼吸症候群	Phase 1 速報 Phase 2b/3 開始				FY2028-2030
レダセムチド	栄養障害型表皮水疱症	Phase 2 速報		承認申請（国内）		-FY2027
	急性期脳梗塞	Phase 2b 速報				FY2028-2030
ナルデメジン	パーキンソン病に伴う便秘			Phase 2a 速報		FY2031-
S-531011	固形がん	Phase 2 速報				FY2031-
SDS-881	認知症 (認知機能検査用AIプログラム)	Phase 3 速報 承認申請（国内）				-FY2027

今後のR&Dの見通し

統合した開発パイプラインを
2026年11月18日のR&D説明会にて発表

現在の開発パイプライン合計：65品目

塩野義製薬

42 品目



鳥居薬品
旧JT医薬事業

23 品目

HIV事業に関するアップデート



SHIONOGI

SHIONOGIが導出したインテグラーゼ阻害剤を含む製品群

インテグラーゼ阻害剤（ドルテグラビル・カボテグラビル）を含むViiV社の製品

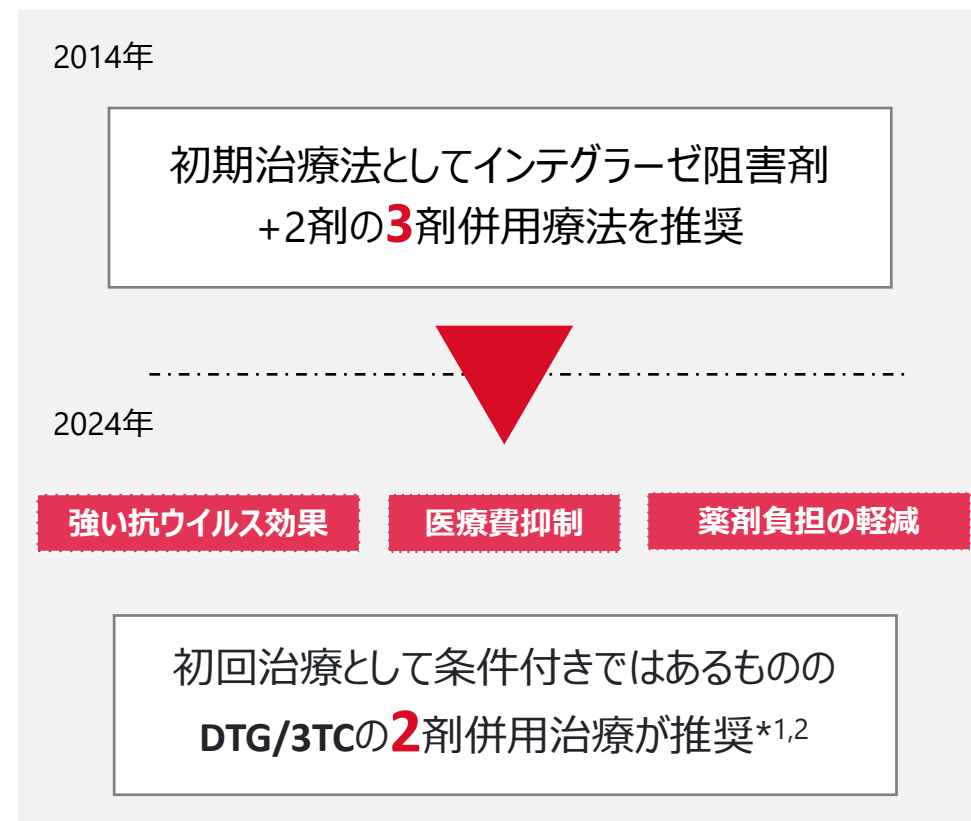
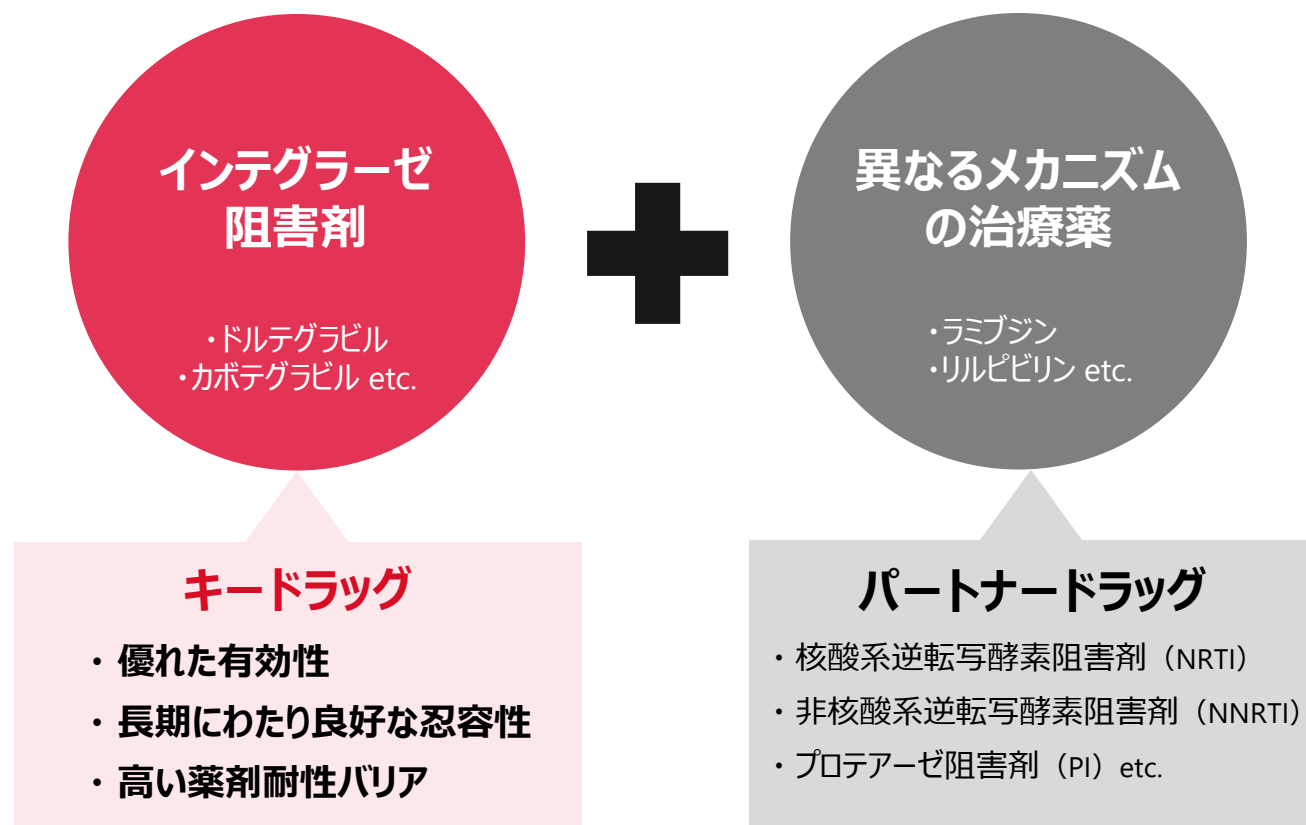
承認取得*1	製剤	製品名	承認取得*1	製剤	製品名
2013年	経口（単剤） 1日1回	 Tivicay dolutegravir	2019年	経口（2剤） 1日1回	 Dovato dolutegravir/lamivudine
2014年	経口（3剤） 1日1回	 Triumeq dolutegravir/abacavir/ lamivudine	2021年	LAI*2製剤 年6回の投与	 CABENUVA cabotegravir; rilpivirine
2017年	経口（2剤） 1日1回	 Juluca dolutegravir/rilpivirine	2021年	LAI*2製剤 年6回の投与	 Apretude▼ cabotegravir 200 mg/mL

インテグラーゼ阻害剤はHIV治療のゴールドスタンダード

ドルテグラビルの発売以降、HIV市場では多くがインテグラーゼ阻害剤に置き換わった

ーHIV治療はインテグラーゼを含む2-3剤併用治療が基本ー

ー治療における標準薬としての地位を確立ー



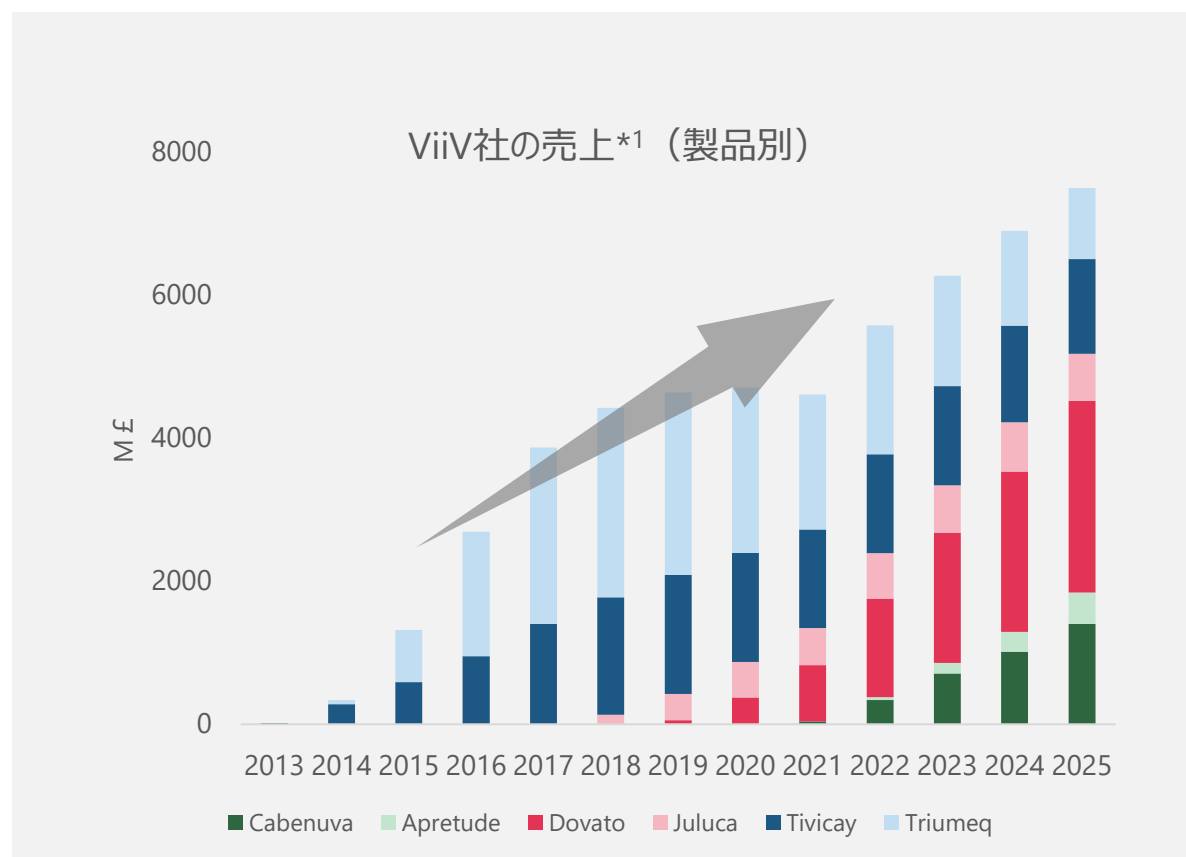
*1 [Guidelines for the Use of Antiretroviral Agents in Adults and Adolescents With HIV \(米国DHHS, Sep 12,2024\)](#)

*2 [European AIDS Clinical Society \(EACS\) Guidelines. Version 12.1-November 2024](#)

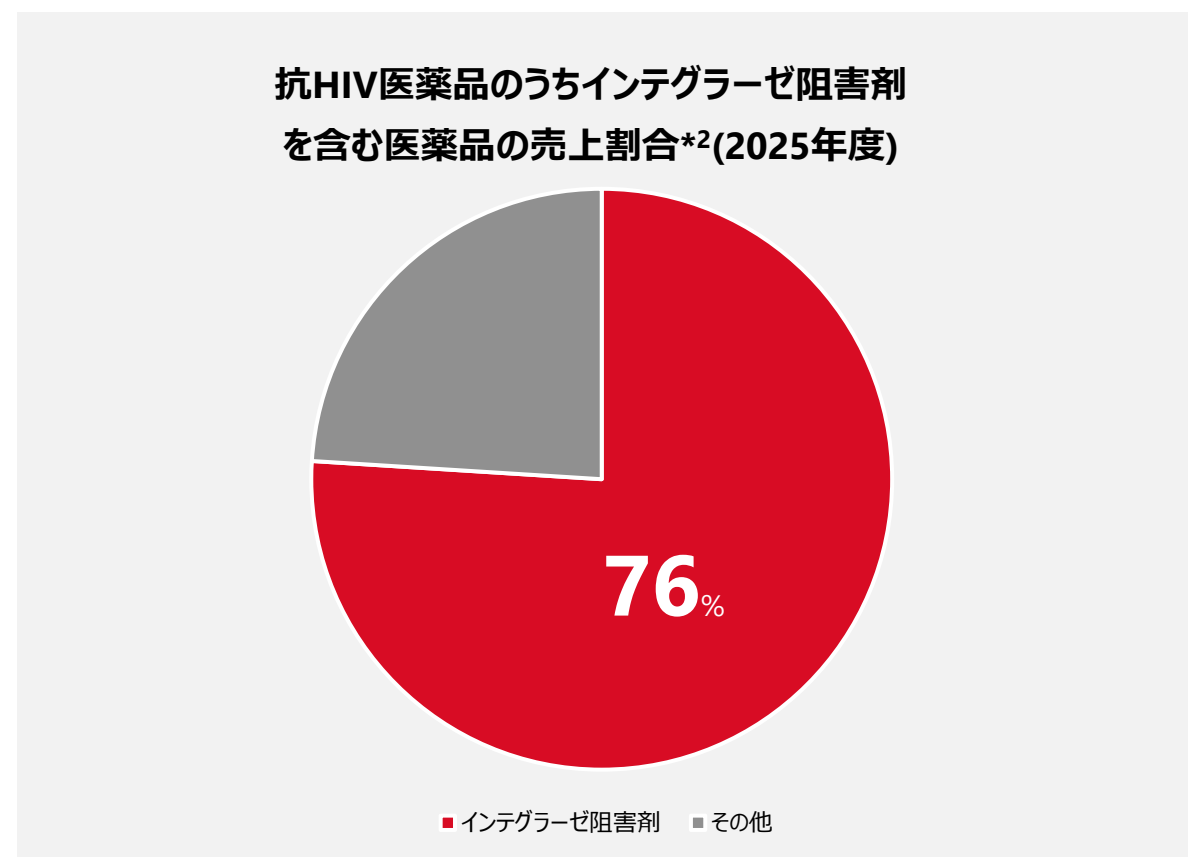
ViiV社の成長とグローバルで使用されるインテグラーゼ阻害剤

インテグラーゼ阻害剤の上市後、ViiVの成長は続く

ーインテグラーゼ阻害剤によるViiV社の成長ー



ーインテグラーゼ阻害剤はグローバルで最も使用されているー



HIVとともに生きる人々のアンメットニーズは変化

ドルテグラビルの発売以降、ニーズはウイルス抑制だけでなく、QOLを重視する方向へ

治療は3剤レジメン
-Triumeq-

経口薬で満たされた
アンメットニーズ



2剤レジメンの開発
-Dovato, Juluca-

- 服用する薬を減らしたい

HIVとともに生きる人々の根源的な
アンメットニーズ



LAI製剤の開発へ

- 毎日の服薬負担と不安の解消
- 他人に知られたくない
- HIVを意識しない生活

患者/医療従事者ともにより
少ない投与回数を希望している

- 高い有効性と安全性
- 耐性発現による治療失敗への不安
- AIDS発症への不安

インテグラーゼ阻害剤のLAI製剤の創製：Cabenuva（年6回の投与）

競合となるインテグラーゼ阻害剤のLAI製剤は2030年まで承認される見込みはない

ーなぜ開発できたのか？ー

インテグラーゼ阻害剤のLAI製剤開発は高難易度



×



2剤でHIVの治療が
可能であることの確信

LAI創薬で先行して
開発を進めることができた

ーカボテグラビルの強みー

世界で唯一承認されたインテグラーゼ阻害剤のLAI製剤



■ ドルテグラビルと同等の性質を保持

- 強力なウイルス抑制効果
- 薬剤耐性変異が出にくい



■ 2か月に1回の投与で治療を実現

- 臨床試験にて長期間の優れた抗ウイルス効果*1



■ 強固な知財戦略

- 追加特許により2040年まで特許保護

LAI製剤を軸として、2030年以降も成長へ

さらなるLAI製剤の開発により、ViiV社はHIV市場を主導する存在へ

ーViiV社の継続した成長の根拠ー



アンメットニーズは満たされていない

長時間作用型HIV治療は、最大の成長機会



マーケットの変革を主導

インテグラーゼ阻害剤を中核として、
市場の方向性を決定できる独自のポジションを持つ



新たな標準治療を作ることが可能

LAI製剤でのリーダーシップを基盤に、
治療および予防の次世代製品を広く展開

ー今後数年間の主要な成長ドライバーー

ー継続した成長へー

2027年

年3回の投与
ー4カ月に1回投与の製剤ー

予防薬
CAB*1

2028年

年3回の投与
ー4カ月に1回投与の製剤ー

治療薬
CAB+RPV LAI*1,2

2030年ごろ

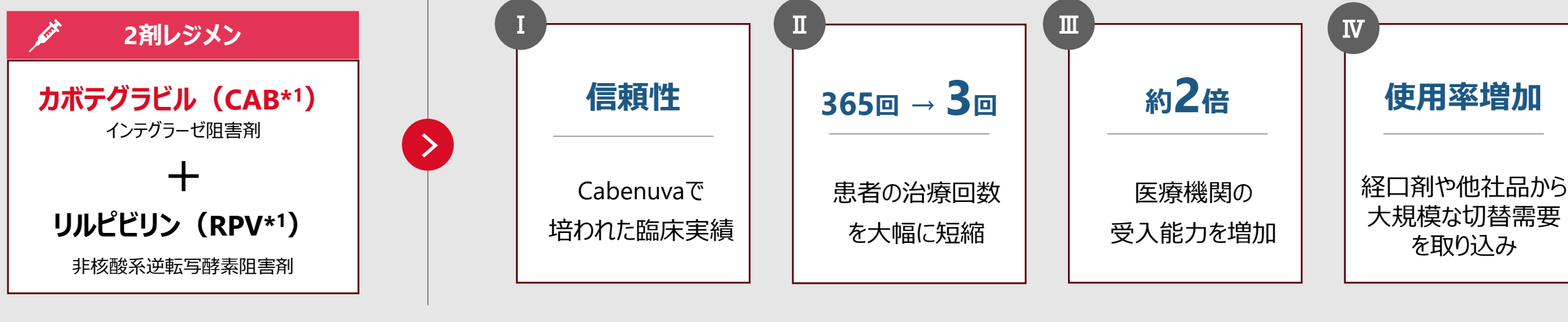
年2回の投与
ー6カ月に1回投与の製剤ー

治療薬
VH184*3+VH499

年3回投与の治療薬（CAB+RPV LAI）

既に上市されているLAI製剤（Cabenuva）の投与間隔を延長し、より使用しやすい製剤へ

－年6回投与から年3回投与へ薬物動態を延長（治療）－



－開発スケジュール－

- **CY2026 6月**：Phase 3 CUATRO studyの開始
- **CY2028**：承認予定

－特許戦略－

- 追加特許により2047年まで保護期間延長を目指す*2

年2回投与の治療薬（VH184+VH499）

6か月持続可能なベストインクラスの化合物プロファイルを有し、新たな標準治療を確立へ

—年2回投与のLAI製剤の実現へ（治療）—



—開発スケジュール—

- **CY2026 H2** : VH499のPhase 2b CINERGY studyの開始
- **CY2028** : Phase 3の開始

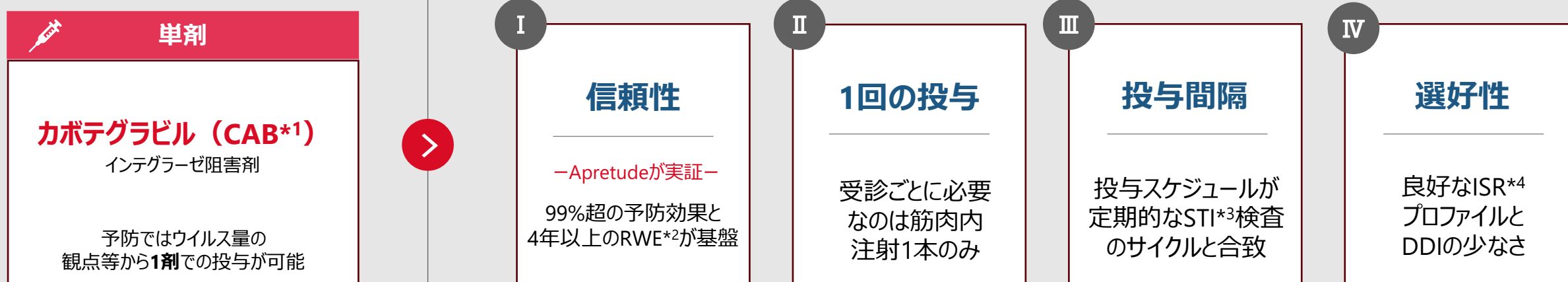
—特許戦略—

- 物質特許は2040年代に満了予定
- 少なくとも**2047年**まで保護期間延長を目指す

年3回投与の予防薬（CAB）

年3回の投与製剤は予防薬として、患者と医療従事者にとって最適な選択肢へ

－年6回投与から年3回投与へ薬物動態を延長（予防）－



－開発スケジュール－

- **CY2026 H2** : EXTEND 4M pivotal data
- **CY2027** : 承認予定

－特許戦略－

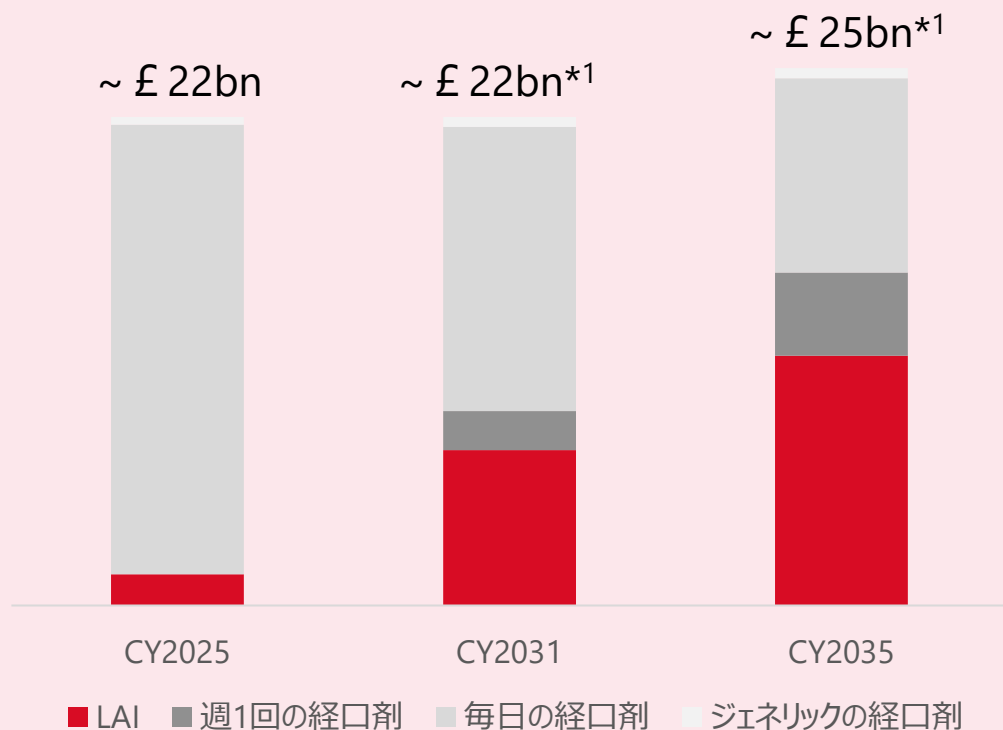
- **2045年**まで保護期間延長を目指す*5

HIV市場の今後の見通し（CY2025～CY2035）

HIV市場は毎日服用の経口剤からLAI製剤へ急速にシフトしていく

治療市場（Global）

治療市場はHIV市場全体の大部分を占める



市場の大きさ*²
治療 > 予防

予防市場（US）

予防市場はLAI製剤により成長するが、治療市場を超えるには至らない想定である



Appendix

国内医療用医薬品売上収益

(単位：億円)

	2026年度		2025年度		対前年同期	
	通期予想	上期予想	4-6月 実績	達成率	4-6月 実績	UP率 増減額
急性呼吸器感染症薬	416	162	4	2.3%	29	△87.2% △25
クービビック	67	29	15	52.5%	1	- 14
ザズベイ	40	11	4	39.1%	-	- 4
ラジカット	70	35	18	50.4%	-	- 18
スインプロイク	64	31	17	53.9%	15	15.0% 2
オキシコンチン類	49	25	12	48.0%	11	4.9% 1
鳥居薬品関連製品*	776	368	188	51.1%	-	- 188
その他	305	138	78	56.2%	85	△8.9% △8
合計	1,786	799	335	42.0%	141	137.3% 194

- 急性呼吸器感染症薬 -

- ・ 抗新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）薬：ゾコーバ
- ・ 抗インフルエンザウイルス薬：ゾフルーザ・ラピアクタ

*鳥居薬品関連製品

UP率：13.2%

2026年4-6月：188億円（SHIONOGIグループでの鳥居関連製品の売上収益）

2025年4-6月：166億円（JTグループ医薬事業での鳥居関連製品の売上収益）



鳥居薬品関連製品売上収益

(単位：億円)

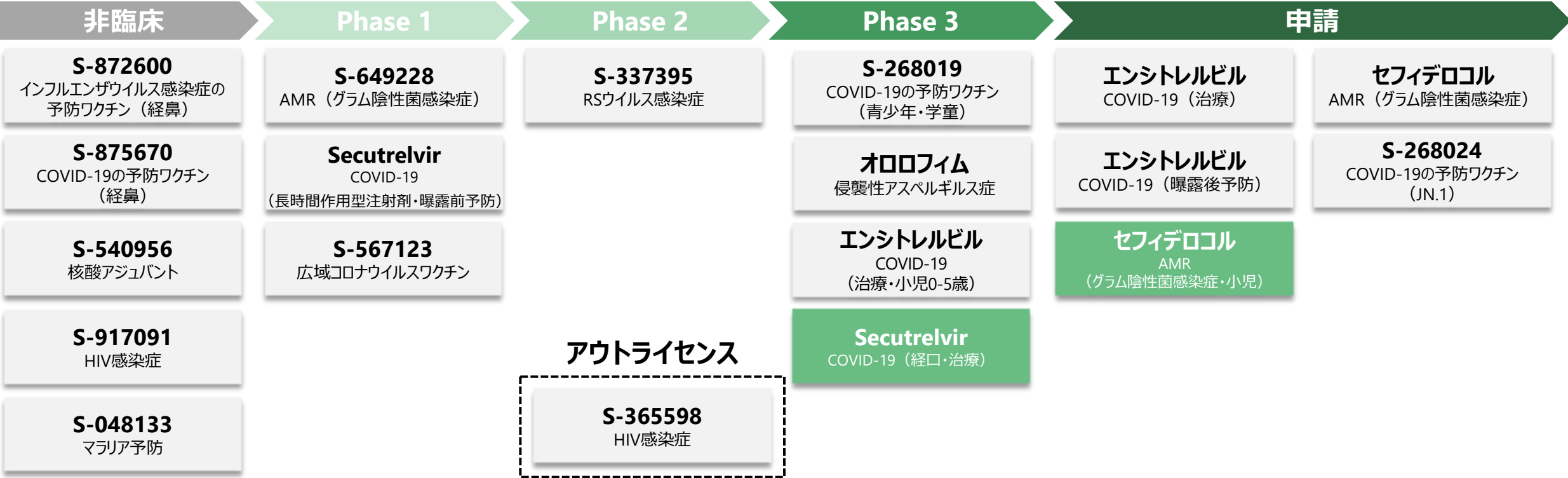
	2026年度				2025年度		対前年同期	
	通期予想	上期予想	4-6月 実績* ¹	達成率	4-6月 実績* ²	UP率	増減額	
皮膚疾患領域	230	111	59	53.5%	55	7.1%	4	
コレクチム	95	49	26	53.0%	25	4.5%	1	
バイタマー	42	16	6	38.0%	7	△14.6%	△1	
アレルギー領域・その他	546	257	129	50.1%	111	16.2%	18	
鳥居薬品関連製品	776	368	188	51.1%	166	13.2%	22	

2026年度の為替レート

為替レート（期中平均）		
	2026年度	
	前提	4-6月 実績
ドル	153.0円	159.57円
ポンド	205.0円	214.00円
ユーロ	184.0円	185.42円

開発パイプラインの状況_感染症

2026年8月3日現在

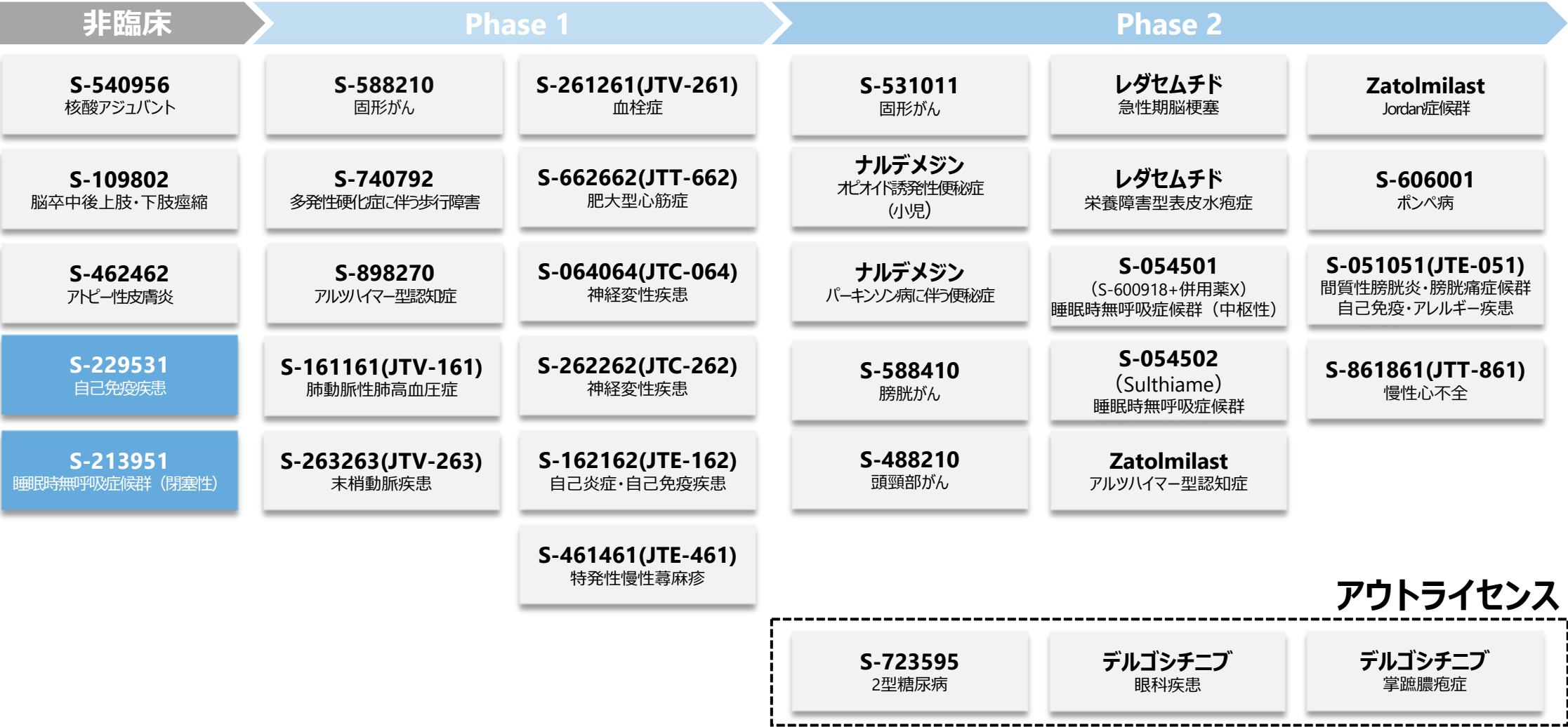


2026年5月13日～2026年8月3日の変更

- Secutrelvir（治療）：Phase 3開始
- セフィデロコル（小児）：米国・欧州申請
- エンシトレルビル（治療・小児6-11歳）：国内承認
- エンシトレルビル（曝露後予防）：米国承認

開発パイプラインの状況_社会的影響度の高いQOL疾患

2026年8月3日現在



開発パイプラインの状況_社会的影響度の高いQOL疾患

2026年8月3日現在



2026年5月13日～2026年8月3日の変更

- S-229531 : 非臨床
- S-213951 : 非臨床
- ナルデメジン (オピオイド誘発性便秘症) : 中国承認

米国におけるRADICAVA事業のスタート

設立した事業会社の強みを活かして、治療が必要な患者さまのアクセス向上に貢献

ー治療アクセスの向上ー

推定ALS罹患患者数*1 (約 33,000人)

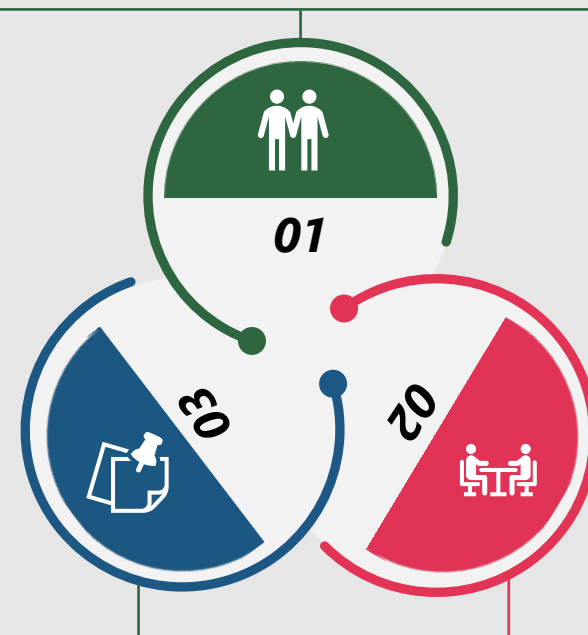


ーRADICAVA事業会社の強みー

患者団体との深いコミュニケーション



4年間の
蓄積された
ノウハウ



専門医への情報提供

保険会社との関係性構築

米国RADICAVA事業における患者のサポート：3つの柱

診断および治療継続にいたる各フェーズに応じた、包括的な患者サポートを展開

1

新規患者への 迅速/確実な支援



- 早期診断・治療開始の重要性の啓発
- 医療機関向けの適切な情報提供
- 新規患者に対するRADICAVA認知向上

2

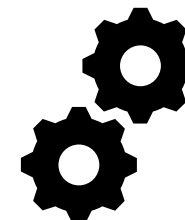
治療開始プロセスの円滑化



- 積極的かつ迅速な医療事務支援を強化
- 速やかな保険承認、薬局での円滑調剤による治療開始までの時間を短縮
- 患者への経済的支援の強化

3

治療継続を 支える基盤の構築



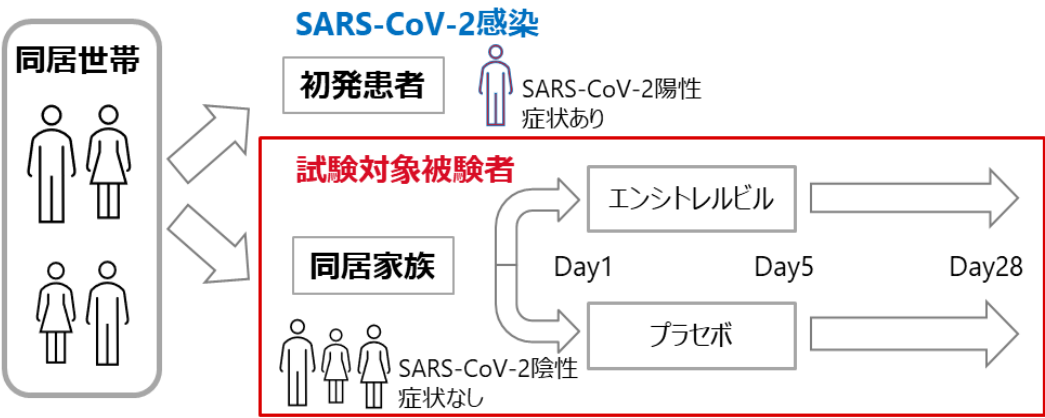
- 服薬・治療の継続を中長期的に支援
- 様々な施策により、治療中断リスクを低減
- データに基づき、段階に応じた必要な支援の提供

エンシトレビル：SCORPIO-PEP*1試験における良好な結果

経口抗ウイルス薬で世界初となるCOVID-19の発症抑制効果を実証*2

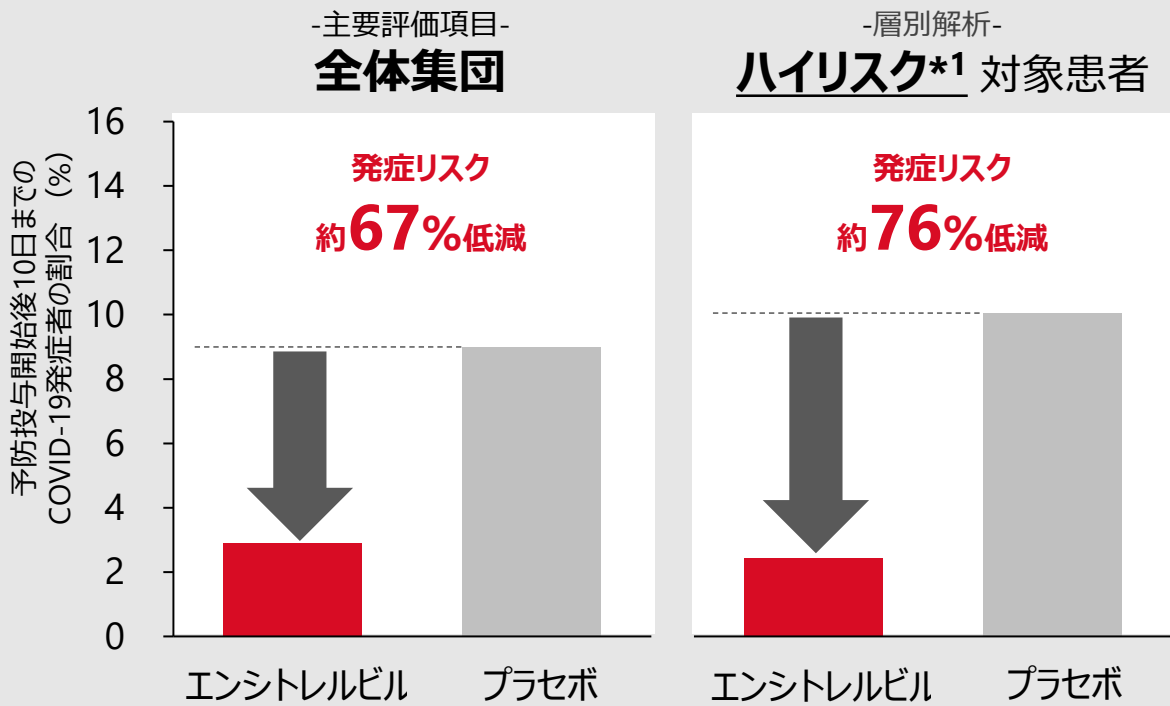
-試験デザイン*3-

実施国	米国、南米、アフリカ、日本を含むアジア
試験デザイン	多施設共同、無作為化、プラセボ対照二重盲検比較試験
対象	COVID-19患者の同居家族または共同生活者
用法・用量 症例数	・ 1日1回経口投与、5日間（治療適応と同一） ・ エンシトレビル：1,200例、プラセボ：1,200例
試験の 主な目的	エンシトレビル投与開始から10日間のCOVID-19発症抑制効果の検証



- Phase 3試験結果（SCORPIO-PEP） -

経口抗ウイルス薬でCOVID-19の発症抑制効果を示した世界初の結果



ViiV社の抗HIV治療・予防薬のラインナップ

製品名	製剤	化合物*1	投与方法	投与頻度	適応	2025年売上 (£M)
Cabenuva	LAI製剤	CAB + RPV	筋肉内注射	2ヵ月に1回	治療	£ 1,402M
Apretude		CAB	筋肉内注射	2ヵ月に1回	PrEP*2	£ 439M
Dovato	経口 2剤レジメン	DTG + 3TC	経口	毎日	治療	£ 2,678M
Juluca		DTG + RPV	経口	毎日	治療	£ 656M
Tivicay	経口 単剤	DTG	経口	毎日	治療	£ 1,323M
Triumeq	経口 3剤レジメン	DTG+ABC+3TC	経口	毎日	治療	£ 991M

将来の見通しに関する注意事項

- 本資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論・結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による審査期間や承認取得、国内外の保険関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- 承認済みの製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項により、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。
- 本資料には、医薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料は国内外を問わず、投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。
- 本資料の利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。